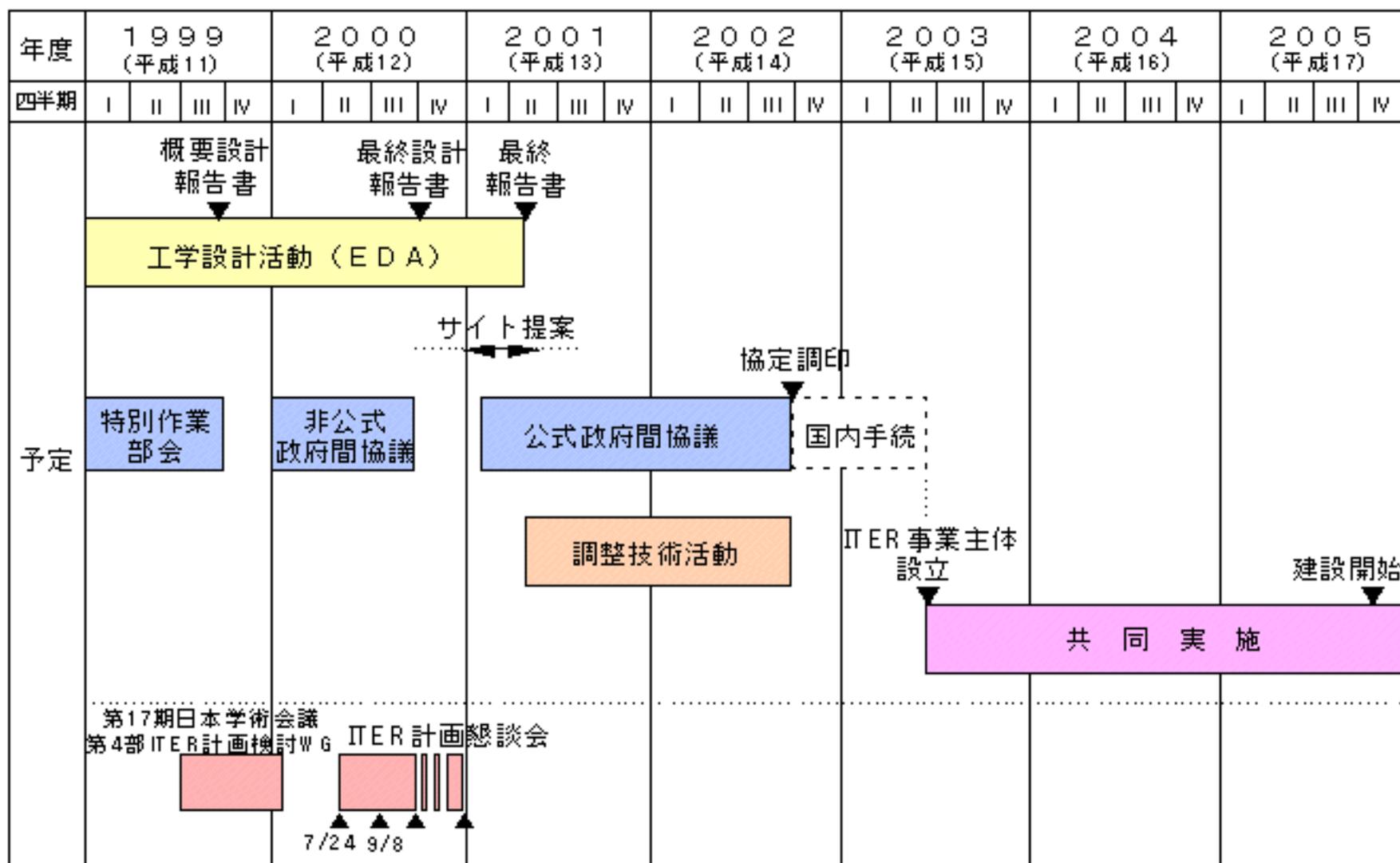


I T E R を 巡 る 最 近 の 状 況 及 び 非 公 式 政 府 間 協 議 の 状 況 に つ い て

平成12年9月8日

科学技術庁原子力局

# 国際熱核融合実験炉（ITER）参考スケジュール



## I T E Rの建設のための国際協定に関する非公式政府間協議

- ▶ I T E R共同実施取り決めの主要事項に対する共通理解を構築するために実施する政府間のノン・コミットルベースの準備協議。平成12年4月に開始、6月に第2回会合開催。今後、10月、12月に会合を開催、年内に終了予定。

### ◀ 非公式政府間協議における各国の議論の方向 ▶

#### 1. コスト負担の考え方

- ・ 建設段階（約10年間）  
実験炉本体建設費：約5,000億円 約3/4 超伝導コイル等主要機器 → 可能な限り均等負担  
約1/4 建屋・機器組立等 → ホスト国負担  
サイト整備費（用地代等）：建設サイトに依存 → ホスト国負担
- ・ 運転段階（約20年間）：約300億円～400億円/年 → 本体建設費の分担と同様に締約国で負担
- ・ 廃止措置段階：廃止措置はホスト国の責任。ただし廃止措置費用は各国により運転段階に積み立て

#### 2. I T E R事業体（ITER LEGAL ENTITY：ILE）の設置

- ・ I T E R事業を責任をもって実施できる国際法人として設置。  
（理事会【メンバー：締約国の代表】は最高意思決定機関。所長には執行責任者として強い権限。安全性等に関してはホスト国の法令遵守）

#### 3. 研究環境

- ・ 資材、機器、通貨の国際的移動の容易化のため最善の努力
- ・ 外国人研究者の長期滞在を可能にするための魅力ある生活環境の整備（子弟の教育施設、配偶者の就労機会等）

## I T E R 誘致を巡る最近の海外の状況

### カナダ

- 民間非営利会社である「I T E Rカナダ」がI T E Rのカナダ建設を推進。
- I T E Rカナダは、クラリントン（トロントの東約60km：オンタリオ電力公社の所有地であり敷地内ではC A N D U型原子炉が運転中）への誘致を検討中。

### 《I T E Rカナダが主張するメリット》

- ・英語圏
- ・大都市（トロント）に近く社会環境が整っている
- ・電気代、人件費、材料費が日本より安い
- ・燃料であるトリチウムの生産拠点であるため、国際間輸送の必要がない
- I T E Rカナダは、本年末迄にカナダ連邦政府及びオンタリオ州政府に正式提案を提出する予定。これを受け連邦政府は春頃までを目途に誘致の是非について判断を行う見込み。

### フランス

- 1999年2月の欧州調査団（団長：宮東大教授）によれば、欧州は日本のI T E R 建設を期待していた状況。
- 最近、フランスでは、フランス原子力庁（C E A）を中心に、カダラッシュ（マルセイユ市の北約70km）への誘致を検討中。C E Aカダラッシュ原子力研究所では、トカマク型実験装置「トル・スブラ」を運転中。
- E U研究相理事会議長（本年12月末迄）であるシュワルツェンベルグ仏研究大臣は、7月12日、欧州議会「工業、貿易、研究及びエネルギーに関する委員会」における議長所信表明演説の中でI T E Rに言及。
  - ・I T E RのE U域内への誘致の是非の判断はかなり近い将来に行うことが必要
  - ・11月のE U研究相理事会において、I T E R建設に関する法的枠組みを定めるための交渉権限をE U委員会に与えることを審議